
















 プ町豊 ロのか未な来自 トを然


特定非営利活動法人 吉里吉里国〒 028－1101
岩手県上閉伊郡大椎町吉里吉里 $3-6-28$ TEL 090－7931－5749 FAX 0193－44－2255 E－mail：kirikirikokumaki＠yahoo．co．jp
基てが
本活
に負動
じ

現ちな持ちえる負現ちなんと思な【特定非営利活動法人 遠野まごころネット】 028－0527
手県遠野市大工町10－10遠野浄化センター内 FAX 0198－62－1002
E－mail：tonomagokoro＠gmail．com
—遠野まごころネット東京事務所
〒101－003
東京都千代田区岩本町1－9－6 田中ビル1F
TEL 03－5809－3953 FAX 03－5809－3954




代
ぞ
そ
れ
を
を
伝
な
な
れ
れ
は








駼Nがロパリ









 ネ
ト
は
岩
手
最
大
の
ボ
ラ
シ営県
利遠
活野
動市
法拠
人点
遠变
野置
ま
ご特
亿定
万非














災地場
＂と所
$い$
$\vdots$
限
定
さ
れ
た
視
点




























 11
を
に
刻


$\qquad$
$\qquad$














杉
神
社
は
鳥
居
た
に
を
を
残
流
流



















大
杉
神
社
が
あ
る
場
所
は
10
m


海
を
な
$\vdots$
し
て
は
生
き
ら
れ
な











http：／／musubu．me
info＠musubu．me
$\stackrel{\rightharpoonup}{*}$ く竹の会所ができるまで〉き

$\qquad$ 1 近果正正

 キャンパス内で実物大の模型を制作。


## 現地の竹で建てた集会施設

## 竹の会所—復興の方舟—

滋賀県立大学 陶器浩一研究窒＋（株）高橋工業
〈活動期間：2011年5月～当面4年間，年2回程度のワークショッフ開倠〉
「未来を語り合いたくても，語り合う場所がない」という被災地の方の言葉をきっ かけに，地域の方々の想いの場を築こうと，滋賀県立大学をはじめ全国から集 まった学生や社会人たちが，旅費•生活費•道具も自前の完全ボランテイアで完成させを集会施設。地域に生息する竹を切り出して使い，学生らが自力でつくり上げた建築は，ユニークな形が印象的かつ，竹の素材感と手づくり感がなんとも味があり，温かめのある建物になっている。構造を専門とする姰器浩一のもと，学生たちが竹の構造や特性を解析し，実物大の模型をつくって実験したう元 で，全国から集まったボランテイアスタッフや高橋工業とともに実現したプロジェク トだ。今後はここでワークショッブなどを開催する予定だという。

「ひとりひとりは小さな力でも，みんなの力を合わせれば
大きな力になる」。その想いを実感した学生たちが，＂たけとも（竹の会所•友の会）＂を発足させました。この会を通して，会所の整備・メンテナンス，地域の子どもたちのための＂寺子屋＂を開く予定です。
（ 090－8375－3604（陶器浩一携帯）
■ toki＠ses．usp．ac．jp taketomo＿takenokaisyo＠yahoo．co．jp


## 仮設住宅地の心象風景をつくる

## 南相馬市『復活の塔』と壁画のある集会所

東北大学 五十嵐太郎研究室＋（株）はりゅうウッドスタジオ＋彦坂尚嘉
〈活動期間：2011年5月～〉
建築史家•建築評論家で東北大学大学院工学研究科教授の五十奝太郎とその研究空マーデイ

ウッドスタジオによるログ組みの集会所の壁面に彦坂が描く壁画，そして仮設住宅で暮らす人たちの ト・彦坂尚嘉，福島県南会津郡南会津町を拠点と 心象風景に残る造形物としての塔が，無機的な仮 する建築設計事務所・はりゅうウッドスタジオのコラ 設住宅群を印象的なものにしている。同時に計画を ボレーションで実現した仮設住宅地内のシンボルとれたベンチは，仮設住宅地内のコミュニケーション しての集会所と，塔の計画。五十嵐研究室とはりゅう ッールとして活用されている。

東日本大震災は，日本の歴史の中で極めて大きな大事件でありました。
それは明治維新以来の日本の近代の終わりです。私たちは新しい時代をつくり出して いかなければならないと思います。それはは精神的には，何よりも政府に頼らない自主独立の気概を持つ精神の復照であります。同時に情報化社会を肯定的にとらえて，血緑や地緑，学閵や会社緣を超えた，情報縁 $=$ 精神的な侕値の共有を介しての人間の結集を生み出していかねばなりません。（彦坂尚嘉）
－contact＠archiaid．org http：／／archiaid．org／

トレーラーハウスの建築を提案笑顔の再生『モバイル・すまいる』プロジェクト NPO 法人N•C．S／—般社団法
〈活動期間： 2011 年3月31日～〉

安価で良質な住宅を供給するNPO法人N•C•Sと移動可能な住宅を供給する日本トレーラーハウス協会による災害復興•住宅供給プロジェクト。未だ建築をつくること ができない東北地方の太平洋沿岸地域で，建築のカテ ゴリーに入らず，フレキシブルな機能をもった移動可能な笁間を提供しようとこのプロジェクトはスタートした。通常 のトレーラーハウスより構造強度が3倍もあり，建築として 30年以上の耐久性や，高気密で高断熱な構造なため，基礎にこのトレーラーハウスを乗せれば，建築物として －再利用」可能なのだという。

今回の震災は地震だけでなく，津波の影響が大きくあります。沿岸部は今でも建築不可能た地域が多，震災当初から東北の方々からの要望を受け車両であるため設置可能な場所かか多い，「動く建築」 であるトレーラーハウスで支援を続けていきます。
© 03－3470－3513 ■ info＠ncs．or．jp © 03－3470－3513－info＠nc
http：／／www．mobile－smile．com

1日で建てられる本格風呂場 ZENKON湯（ぜんこんゆ）プロジェクト齊藤正／款工房と瀬戸内国際芸術祭2010「港のカフェ ZENKON（せんんこん）」で知り合った人たち

震災直後，满足にお風呂にも入れない人たちが大勢い ると知った建築家•齊藤正らが，建築の心得があれば，少人数でも1日で組み立てることができる在来工法を用 いた木造の浴空を提案し，被災地へお風呂を届けると いうプロジェクトに取り組んだ。建築資材には震災後でも十分に手に入る安価な材料を使い，風呂の追炊装置 は，被災地の瓦磁の木材・ガス・灯油と，電気以外のど の熱源でも燃唟可能な構造となっているなど，被災地の状況に合った柔軟なデザインなことも特徴。な执，設計図 はオープンソースとしてweb上に公開されている。 ZENKON湯はコミュニテイの「わ」をつく公設的な温浴施設「わ」を大きく広げましよう。また，恒久的な温浴施設 としての新たなZENKON湯も現在計画中です。
－0877－22－1592（東日本大震炎支援プロジェクトZENKON湯事務局） －info＠zenkonyu．jp http：／／www．zenkonyu．jp／


ポカ゚゚カ
お風呂あります 4
お風呂あります
—

集成材でつくる「積み木の家」復興拠点施設『小さな積み木の家』九州産業大学矢作昌生研究窒＋九州工業大学德田光弘建築

内に建設された応急仮設住宅9世帯を含む12世帯以外は地区外の仅㺃住宅等へ離散してしまった地区•気仙町今泉。復興执点施設•小さな積め木の家」は，木集成材ブロックの積み相地復門の一セ一渋目としで可能な工法でつくられている。今泉の の䅣み木少目をして，住民の手によって建設された。342個
 －められ，建物自体が今泉の末来を

この施設を拠点に，現在も大きな輪を つくりなから歴史豊かな今泉の復興を進めています。白ら建設でき，改築•増築•移築も可能な積み木で 093－884－3115（九州工業大学德田光弘建築計画研究窒） tokuda＠civil．kyutech．ac．jp


オーニングで仮設を使いこなす ソラノキャンバスプロジェクト前見文德×基真由美

迅速に仮設住宅を供給できるシステムとして支持されな がらも，さまざまな問題点を指摘され，なかなか解決しな いプレハブ仮設住宅。そこで，あえてプレハブ仮設住宅 を使いこなす感覚で，問題点のひとつとされる熱負荷を軽減するための可動式オーニングを設置して「木陰の空間」をつくり出したプロジェクトだ。そこに誕生した空間 は，みんなの「居場所」となる。布を介した「お向かいさ ん」とのコミユニケーションを生み出し，またオーニングを キャンバスに見立て，被炎地の子どもたちが絵を措くプロ ジェクト「ソラニエガコウ！！も行われているる。

支援金も受け付け中ですが，被災者の方のニ

－050－6860－6860（前見建築計画） 8 045－252－1902（M．A．D一級建築士事務所） http：／／design311．jp／archives／1148 http：／／www．fma－arch．net／



三苗形の中庭を囲むのは，ウッドデッキのある子育てゾーン。中庭は子どもたちの遊び場となります。


希望の郷「絆」の中心にあり
子㕕てゾーン・ケアゾーンとウッドデッキで
つながっているサポートセンターは
ここで暮らす人たちの支援や交流の場所。生活支援相談員も配置されています。


沿岸被災地を後方支援する中核施設

## 遠野市仮設住宅 希望の郷「絆」

東京大学高齢社会総合研究機構，岩手県立大学社会福祉学部，遠野市，（株）リンデンバウム遠野

遠野市は本田敏秋市長以下，市民•職員が一丸となり，震災発生直後より沿岸被災地のた めの後方支援の中心的役割を担ってきた。その一環として実現したのがこの希望の郷「絆」。中心のケアゾーンはケアの必要な高齢者などを自然に見守れるように部屋が対面式の配置 となっており，その間をデッキと半透明の屋根がつなぐ半屋外空間は，コミュニケーションが生 まれやすい環境をつくり出している。さらに中庭を囲む子育てゾーンや南向きに平行配置され た一般ゾーンも計画され，コミュニティとプライバシーのバランスを取りながら，さまざまな世代 の人たちがともに生活できる場となっている。

> 本プロジェクトは, 地元の建築会社との協働•地元産材カラマツの利用なと

地域資産を活用して実施されました。今後も地元の業者•地元産材の利用など，地域に還元される形で復興事業が進んでいくことを望みます。

『゚ 0198－62－2111（遠野市）
83－5841－6218（東京大学高齢社会総合研究機構）
（8）0198－62－0631（森林のくに遠野•協同機構）
http：／／www．city．tono．iwate．jp／index．cfm／36，0，201，html（遠野市沿岸被災地後方支援） http：／／www．iog．u－tokyo．ac．jp／（東京大学高齢社会総合研究機構） http：／／www．morinokuni．com／（森林のくに遠野•協同機構）


高齢者など，ケアを必要とする人同士が自然に見守りできるようにと，ケアゾーンの玄関は向かい合っています。上部には透過性の屋根もあり

平行に配置された一般ゾーン。
ときには，窓の前に設置された緑台で
ときには，窓の前に設直された緑台で

福島県産杉の建物で住民を瘉す
福島県の材木と地元大工の手でつくる応急仮設住宅
（有）三春設計舎 三瓶一壽（日本建築家協会福島地域会応急仮設住宅建設WG．）
地元工務店5神が「こ春町復铜住宅をつくる会1を組㵶して建設した。建て応急仮設住宅100戸分を供給したプロジェクト。福島県田村郡三春町内の原発事故避難者の仮設住宅とし て，100\％福島県産杉を使用した木の香り豊かな空間で生活し てもらうことで，少しでも被災生活を療したいと計画された。住


戸間プライバシーを守りつつ，仮設住宅団地内のコミュニティィ も配慮した配置計画となっている。また住戸内における温熱環宅供給へ生かすため，多方面からのデータ収集も繙続している。
$\square$ ヒトが動物が，そして原発事故です。このことで多くの
迎えた終末社会を変えると決めて，日本国の向からべき道を宣言すべきです。われわれは応急仮設住宅供給プロジェ外 を行う中でいくつか見えてきたものがあります。しかし，まだま これらを整理して表し 今後につ
 の使命と考え，さまざまな支援事業を実践していきたい。

福島県田村郡三春町字荒町171－10
－0247－62－1309 $\mathbf{M}$ juta＠lares．dti．ne．jp



ログハウスの仮設住宅と集会所
［木造仮設住宅群］福島県応急仮設住宅建設における活動
（株）はまりゅうウッドスダンオー日本大学工学部浦部辟義研究室
設計事務所・はめゆウウッットスタダオオは福島県南会津郡南会津町，
日本大学工学部浦部智義研究室は福島県郡山市を拠点にL，復興
に関するさまざまな活動•提案を共同で行っている。福島県応急仮設住宅建設にお活いてログハウス仮設註宅の設計•配置計画を共同で行い，応募段階から実施設計まで，都市と地方の2地域居住やクラインガルデン（都市農園）の思想を取り入れた仮設住宅だ けでなく，ロハス集会所，南相馬集会所（東北大学五十嵐研究室と共同，P04［18］参照），KAMAISHIの箱建築家•難波和彦氏と共同）等仮設住宅地の中核施設について提案•設計も行っている。


「災いは必ずくる，禍福は䊼える縄の如し」南相馬の
主旨と言葉が重なり合った。一段で五分（15mm）の「ズレ」が生む「ねじれ」は，彦圾尚嘉氏が染める和の表情を咉し出す。芸術かか列す恩恵を私自身が知ることとなった。一連の過程は，今後の復興において忘れてはならない

Minfo＠haryu．co．jp


木材の地産地消で仮設住宅を住田型木造応急仮設住宅の建設住田住宅産業（株）

岩手県気仙郡住田町は，山づく听ら住宅建設まで一貫し て行う事業を展開してきた。その一翼を担ってきた住田住宅産業は，多田欣一町長の指示により，プレハブ仮設住宅 に代わる木造仮設住宅計画に取り組んでいたところ，今回 の震災で住田町と陸前高田市に木造応急仮設住宅を建設することになり，more trees（P14）が住田町へ支援を行った。地元産のスギヤカラマツなどの木材をふんだんに使用した建物は，実際に入居した方々からも木の香りがし て安らげると好評だという。
この度の震災で被害に合われた皆様，
心より深くお見舞い申し上げます。すぐ隣町の其大な
$\begin{aligned} & \text { 被害を目の当たりにし，1日でも早く安心した生活を } \\ & \text { 取り㞍していただけるよう，今後はより地域に根ざした }\end{aligned}$
復興住宅の建設に頑張ってまいりたいと思います。

て 0192－46－2465 ■ sumi－jyu＠mx51．et．tiki．ne．jp http：／／www．ii－ie．net／sumita／


迅速に，空間を，72時間で碓保する！
淺田英紀（株）GK設計

（活動期問：2011年3月～2
仮設建築「QS72』は，迅速に（Quick），空間を（Space） 72 時間（ 72 h ）のうちに確保できるという災害支援空閏。軽さと丈夫さをを兼ね備えつつ，1ユニット＝1畳半のリサイ

 キテクチュア」である。今回の震炎では，災害発生直後
から即時に展開して，生活空間を提供した。石巻赤十字 から即時に展開して，生活空間を提供した。石券赤十字
病院では，仮設診療施設やボランテアセンターなどに病院では，用され，日本赤十字社の標準装借品として推廌されれる など高い評亚を得たという。
地域コミニニテイは復興の拠り所として，人と人，
人と社会を結びつける大きな力となります。QS72が
コミュニテイ再生のおお役に立てることを願っています。
88 03－3293－7161
－info＠qs72．com
http：／／www．qs72．com

気仙沼•唐桑地区に築くふるさと気仙沼大沢地区高台移転計画横浜市立大学 + 神戸大学 + 東北芸術工科大学 －活慟䡒間：2012年3月～
宮城県気仙沼市唐桑半島•大沢地区の高台移転に閉する活動である。都市計画，建築，ランドスケープの
専門家が間わって津波で生われ再現模型を専門家が関わって，津波で失われた町の再現模型を通してコミユニテイを確認し，そのコミユニテイを維持し
ながら高台に移転する方法を探る活動である なから在り方，ランドスケープ，環境共生型の住宅群の在り方を考えなから提案していく。国土交通省の「防災集団移転促進事業」に則り，ほかのさまざまな事業を組 み合わせて，現実的で理想のコミュニテイづくりを目指 している。防災，エネルギー，風景の復活がプロジェクト成否の鍵となる。

東北の震災は1年前の過去のものではありませ
まだ，続いています。鮮烈なイメージかない分
これからが本当に大変です。ぜひ，見に行ってください。
この展筧会がそのためのきかけたなってしいと思います。

http：／／gs．tuad．ac．jp／ae／index．php

避難所でつくる簡単間仕切り

## 間仕切クプロジェクト


テキスタイルコーデイネーター・デザイナーの安東陽子と照明デザイナーの岡安泉とのコラボレーション・プロジェ同生活を少しでも快適なあのにするために，少人数で臓単に設置できる間仕切りの仕組みを提案している。ワイヤーから布地を下 げるだけの単純な構造ながら，半透明の生地を重ねることによって目隠し効果を高めプライバシーを確保。しか し向こう側に人の気配も感じることが できることから，ゆるやかなコ
ケーションを保つ結果となった。


布は肌に最も近い素材です。
避難所以外でも多様な使い。道がありますので何かありましたらご相談ください
tp：／／majikiri．wordpress．com／
上記webサイトの「援焾口｣にコメントをお寄せください

## 建築家と被焱地をつなぐ枠組み地域復興活動支援

サマーキャンプ半島へ出よ

アーキエイド—東日本大震炎における建築家による | 復興支援ネットワワク |
| :--- |
| 活動䐓間： 2011 年3月15日 |
| 1 |

建築家による支援活動をネットワーク化して，支援を必要 ている被炎地に適切につなぐプラットフォームとなるこ とを目指す「アーキエイド』。現在，内外の建築家を中心に 267名（2012年2月現在）の賛同を得て，3つの目標を揭げ て活動中。（1）国際的なネットワークによる多面的な復興支援•地域振興プラットフォームの構築（2）被災地の建築教育の再建／実践的復興教育サービスの開発（3）震災知識の集積と啓蒙。昨年7月には，牡鹿半島の30の浜の被災状況を把握するためのワークショツグ「サマ
半島へ出よを開催し，計 15 大学が参加した。
今後も日本のみならず世界中からご支援をいただき なから，長期的視点で復興支援，教育支援，そして震炎知識 の共有を進めていきたい。復畏への道のりは長いですが，浜のにきわいが戻るまで，がんばつていきましよう！

M
http：／／archiaid．org／

－bonchan＿s＿k＠yahoo．co．jp

日曜大工で仮設の暮らしを楽しく仮設カスタマイズCafe
仮設カスタマイズお助け隊
東北工業大学工学部建築学科•新井信幸研究窒等の教員，学生10名と，その他 30 名以上の協カスタッフで構成 される「仮設カスタマイズお助け隊り。仮設住宅の環境改善を目的に「つくってあげる」のではなく「軒先に出て一緹 につくらう！」を揭げ，昨年6月から収納や縁台制作などに取り組んできた。10月には仙台市内の広場でカフェを開設 し，そこで大工作業を行うイベントも開催。仮設住宅で暮ら す人たちの復興への意欲と創造力を高めていこうとする この活動は，同大学の拠点である仙台市から宮城県塩鹭市，南三陸町，岩手県大船渡市へと広がって


南三陸町，岩手県大船渡市など。
カワェ，日曜大工ともに，どなたでもご参加いただけ

$$
\begin{aligned}
& \text { ます。イベント開䍜日時は下記づログにて。呼ばれれはは, } \\
& \text { どこへでもうかかい, 日曜大工支援活䡃を行います。 }
\end{aligned}
$$

© 022－305－3614（ no－arai＠tohtech．ac．jp
http：／／ameblo．jp／no－arai／


熊本から届いた住民の集いの場
くまもとアートポリス東北支援『みんなの家』
くまもとアートポリス東北支援『みんなの家』建設推進委員会
〈活動期間：2011年5月～10月〉
『くまもとアートポリス（以下KAP）』は，優れた建築に 豊雄とともにKAPアドバイザーで建築家の桂英昭， より質の高い生活環境の創造や地域文化の向上を 末廣香織，曽我部昌史が行い，構造家，家具デザイ図り，情報発信基地となることを目指して1988年にス ナー，テキスタイルデザイナー，造園家なども協力し タートした熊本県独自の事業。そのコミッショナーの た。住民も打ち合せを重ねるにつれ主体的に関わる建築家•伊東豊雄が，仮設住宅で暮らす住民の精 ようになり，竣工式では，住民主催の芋煮会が開か神的な安らぎの場として『みんなの家』の提供を提 れたり，『みんなの家』に神棚を取りつけたり，炬燵を案。賛同した熊本県の諸団体が建主となり，KAP県 設置したりと自分たちの空間として使いこなし，現在外初のプロジェクトとして実現した。建築設計は伊東 はみんなの想いの場として活用されている

私たちはみな，今回の大震災の当事者です。だから批判ばかりせずに，今日できることから始めなくては なりません。そして，東北のみなさんが厳しい自然と向かい合いながら持ち続けた強い「心の䊼」を失わない取り組みが必要です。その絍こそ，これからの社会の素晴しいモデルなのですから。（伊東豊雄）
（8）096－333－2537（くまもとアートポリス事務局•熊本県土木部建築課内）
－kenchiku＠pref．kumamoto．lg．jp http：／／www．pref．kumamoto．jp／site／artpolis／list1769－3625．html

| 32 | 㗢エリア：下隹 |
| :---: | :---: |
| 地域住民とともにつくる避難地図 |  |
| 避難地形時間地図 <br> （株）日建設計震災復興ボランティア部逃げ地図チーム <br> 〈活動期間：2011年3月～値時，士羅日が活動日〉 |  |
|  |  |
| 東京スカイッリー，東京ミッドタウンなどの大規模建築や都市計画，土木計画などを手排ける設計事務所•日建 |  |
| 設計のボランテイアチームの取り組め。安心して住み続け |  |
| $ら れ る$ 町づくりの基盤となる地図の記述方法として開発 |  |
| された「避鸛地形時問地図』（通称：逃げ地図）。地元の |  |
| 人たちとの共作で地域の概要を把握し，地元情報と直感による改善提案を作成後，コンピュータによる評亚検 |  |
|  |  |
| 証を行い，より高度な合意形成に基づく町づくりを可能に |  |
| しようという試め。同時に，これから迎える縮退時代の |  |
|  | ベースマップとしての可能性も見えてきた。 |
| 活動エリア：宮城県気仙沼市本吉町大谷，気仙沼市唐桑町大沢，気仙沼市鹿折，宮城県本吉郡南三陸町戸倉地区長清水，石卷市釜石市，岩手県大船渡市三陸町越喜来，下閉伊郡山田町 |  |
|  |  |
| この地図づくりは誰にでもできる非常に簡単なものです。興味を持たれた方は下記メールまでご連絡ください。 |  |
|  |  |
| 8 03－5226－3030（担当：設計部 羽鳥） hatori＠nikken．co．jp |  |
|  |  |

仙台平野「復興まちづくりの原則」
実現に向けた活動報告東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
環境デザイン石川幹子研究至環境デサイン石川倝子研究室 （唀動期間：2011年4月～
東京大学GCOE（Global Center of Excellence）プログ ラム「都市空間の持続再生学の展開」では，震災復興支援活動の一環として2011年4月に宮城県岩沼市との協力体制を立ち上げ，夏興べランドデザインを作成。現地にてワー

地や文化的景観としての崌久桹の調查研究を行っている ＊居久根（いぐな）：屋教まわかのの椎裁のこと

東北の復興が地球環境の持続再生に向けた一歩となることを期して，共に歩んでいきたいと思います 1日も早く復興か実現されることを願っています。
（23－5841－0234（担当：片桐由希子
yukiko＠epd．t．u－tokyo．ac．jp

安心安全な子どものサンクチュアリ こどもの隠れ家／屋内の大地 Creative for Humanity（少エイテイブクッーヒューマニテイ）活動メンバー：有黰子

避難所内で，子どもたちが元気に遊べる場があること逃難所内で，子どもたちが元気に遊べる場があること
透過性のある伸絴する布が張られた木製フレームを して見守れる場をが生み出した。現在は，役割を終えた避難所での活動に代わク，ワークショップ「屋内の大地】が行われている。これれは被災地の子どもたちに「こどもの隠行われている。これは被災地の子どもたちにたどもの隠 を感じてもらえる場を提供しようという活動。主に福島県内で展開される予定だ。

震災から1年が経過しましたが被災地の子ども
たちかか安心した生活を送るためには，これからの活動 より重要となります。ご支援とご協力，よろしくお願い願しまます。
－info＠creativeforhumanity．com $\boldsymbol{\square}$ casano＠bhis．jp
ttp．／／www creativeforhumanity com／



みんなのハートをつないで届ける
HEART MARK VIEWING（ハートマーダュ゙ューイング） HEARTMARK VIEWING


人々が震災に際し「何かできないだろうか」と思う気持ちを受け止め，多くの人と，ハートのパッチワークをつくり，そのパッチワークをつなぎ合 わせた夕ペストリーを東北に届けて被災地の空間を飾り付ける。同時 に，東北の訪問地の人々とワークショップを行い，ともにハートマーク喜びゃ，人がもともと持っている＂未手から来を㑑かを像する力＂を取り戻してもら うこと，また，人々の気持ちをつないでハートに満ちた景色を取り戻し てもらい，次の行動への活力となることを願う活動。

何かを想う気持ちがあるとき，胸が高まる，ざわめく，熱くなる その波動は形のないものを形にする力がある。HMVV（ハートマーク ビューイング）はそうして生まれてきた。福島県南相馬市での いは流された神社のお社になった。岩手県釜石市平田の でバス待合室が語らいの場になった。－の波動は人を繋げ未来を生み出す力がある。


М heartmarkviewing＠gmail．com http：／／heartmarkviewing．jp／


〈田意するもの〉


仮設住宅に集う場•読む場を いわてを走る移動図書節つ゚ロジェク公益社団法人シャンテイ国際ボランテイア会
（活動期問：2011年6月～） （活動䐓間：2011年6月～）

ふれあいの場を届ける移動図書館 ふれあいの場を届ける移動図書館
ホンのちょっとあかせはごふ〈活動期間：2011年7月～2012年3月末〉
被災地域の仮設住宅を巡回する移動図書館。2台の移動図書館車両にはそれぞれ約 2,500 冊の本を積み込 み，宮城県仙台市内の仮設住宅14ヵ所を巡回している「普段から本や印刷物を身近に感じ，本好きが多い印刷会社だからこそできることはないかりという社員の声によ り，活動がスタートした。公募で選ばれた社員が週交化 で現地に赴き，本の貸出などを行っている。「本と人，人と人とがふれあう場をつくる」こと


BookWagonは巡回地周辺に お住ましの方ならどなたでも利用することができます。
巡四場所•日時については080－1301－6664（Book Wagon仙台事務局）までおう問い合わせください。
8．03－5840－2707（BookWagon東京事務局）
－bookwagon＠toppan．co．jp http：／／bookwagon．jp


岩手県内の図書館でもとくに壊减的な被害を受けた陵前高田市，大船渡市，上閉伊郡大榎町，下閉伊郡山田
 の現場で緊急救援を実施している。移動図書館では本 の貸出のほか，カフェスペースを設け，人々が集える場－ くりも。巡回地域は随時webサイトにて公開。また，仮設団地の集会所に本棚を設置し運営を行っている。同団体は宮城県気仙沼市で住民とともに町の未来を考える「つながる人の和復興プロジェクト気仙沼」も行う。
国際ボランテイア会岩手事務所に お問い合わせください
石手県遠野市松崎町
白岩 $20-23-5$（岩手事務 2 0198－60－1286 iwate＠sva．or．jp
http：／／sva．or．jp／iwate


写真から始まる＂出会い
『MEETS』プロジェクト
育藤道有\＆気仙沼高校写真部

2011年7月より，宮城県気仙沼市在住のアーティスト・斉藤道有が自身の母校でもある気仙沼高校写真部の7名 の生徒と行っている写真ワークショップ。偶然性から生み出される＂出会い＂そのものをテーマにして，被災地域や何気ない日常の風景を使い捨てカメラで摄影し，写真を見ながらデイスカッションをしたり，お茶を飲みなから会話 を楽しむ。若木信吾をはじめとした写真家や画家，現地 の人々をゲストにワークショップを行うことも。活動拠点は，斉藤道有の実家でもあり津波で被害を受けた老舖茶屋 Tマルト齊藤茶舖」。月に1回ほど定期的に開催している。
 －s．michiari＠gma

## 被災地の障がい者をアートで支援 タイヨウプロジェ外


濞がいのある人によるアートを，社会に発信し仕事につ なげるエイブルアート・カンパニーー『タイヨウプロジェクト』 は震災後，カンパニーの登録作家がアートのカで支援を したいと「タイヨウ」の絵を描いたことがきっかけで始まつ た。作家の絵をもとにグッズをつくり，売り上げの一部は被災地の障がいのある人たちの＂しごどの復興に役立て られる。2012年 2 月現在，宮城県亘理郡山元町の工房
地球村と仙台市青葉区の，多夢多夢舎中山工房の支援


「誰もが自分らしく生きている社会をアートや

エイブルアート・カンパニー設立当初からの想いは
「タイヨウプロジェクトにもつながっています。
8．0742－43－7055（たんほぼほの家内）
$\square$ acc＠ableartcom．jp

ふたつの＂植木釷＂が人をつなぐ Niconico Flower Project FUKUI\＆TOKY0 （ニコニコフラワープロジェクトフクイアンドトウキョウ）林聖司／Office Mokum
〈活動期問：2011年7月2日～）

福井県にてイベントの企画•運営や町づくりのプロデュー ス，ワークショップなどの企画を行うoffice Mokumoku。こ のプロジェクトは，参加者が小さな植木鉢と花の苗をふ たつ購入し，四角く真つ白な植木鉢をキャンバスと見立 て，そこにひとつの絵を描く。ふたつの植木鉢のうち，片方は被災地に送り，もう一方は参加者が持ち爰り育てる ことで，被災地と参加者が1対1の関係となる。このワーク ショップはこれまで福井県をはじめ，東京ではアーツ千代田3331にて開侁しこれまで花が植えられ，絵が描かれ た錬は被災地の幼稚園などに送られ イベント自体は不定期ですが，この ワークショツグイベントを開催して ほしいといううかっ，植木鍕を送って ければ幸いです。
－shayashi＠mokumoku．m
http：／／mokumoku．me


かけがえのない思い出が蘇る
富士フイルム写真救済プロジェクト
富士フイルム（株）
津波によって汚れてしまった写真やアルバムをキレ 多くの参加者を集めている。津波で失われた町の イにし，持ち主に返していくプロジェクト。富士フィル 風景が写る写真は，その町に生きてきたことの証で ムでは，震災直後の2011年3月24日に泥水に浸 あり，人々の復興への支えともなる。現在も被災地 かった写真を洗う方法をwebサイトで紹介。その後，社員約 30 名が順次被災地を訪ねて写真洗浄の技術指導や必要な資材の提供（トレイ，ゴム手袋，洗濯バサミポケットアルバムなど）を行い，6月末から は1ヵ月問，社員，OB，その家族が神奈川工場足柄体育館で被炎地から預かった写真やアルバムを洗浄した。8月以降は「被炎地に行かなくてもできる ボランテイア」として，ボランテイア活動を企画•運営し各地や，被災地外でも行われているボランティアの人々との連摬を図り，少しでも早く，1枚でも多く，持 ち主に写真が戻るように活動を継続している。

被災地の方には
あきらめないで写真を探しに

http：／／fujifilm．jp／support／fukkoshien／

## 少しずつ，長期的に被災地を結ぶ双子の星プロジェク <br> 門腹箈

＂まちとアート＂をテーマに活動する仙台市在住のアー テイスト・門脇篤と，滋賀県票東市で活動するさきらボラ た双子の星の物語が描かれたぺアTシャッを販売し，購入した参加者は自身の写真とメッセージ・連絡先を入れ てペアTシャッの片方を東北へプレゼントする。それを門脇が東北へ届け，受け取った人にTシャツを着てもらい同じTシャッを着ている人が，この星の下のどこかにい る」。そのささやかなつながりを長期的に生み出して

## 自分がく直接閉われる，大切にしたいと思っています。

© 080－4357－7035
Minfo＠kadowakiart．com


地元のために，できることから宮城県塩籄市での支援活動
平間至（ひらましたる）
興文接活動を行っている。10年前に塩管に暮らす 100 人







とんなことでも困ったことがあったら
連絡をください。自分でできる限界のことを
© 03－5440－7025 ■ info＠itarujet．com
http：／／www．itarujet．net／
https：／／twitter．com／\＃！／itaru＿jet


福島の声と想いのアーカイブ PRAY＋LIFE～ふくしまの声～

福島の人々の記憶や想いをを残すことを目的に，福島県し わき市在住のアーディイスト・栕城光かか始めた活動っ201
 の声を冊子やインターネット上で公開している。それぞれ の事情や価値観を抱えなから， を搔しい上げ，ともたとをで，相互に理
 る。インタビューの英語版もweb
サイトに公開。さまま゙まな＂声＂ サートに感じることを公開。さまざまな＂声＂ いながら，これからの私たちの


M info＠praylife．ne
http：／／praylife．net／


いくつもの＂未来へ＂の想いを乗せて
GO FOR FUTURE（ゴーフォーフューチャー）遠藤一郎
（活動期間：2011年5月～）
＂未来へ＂というメッセージを伝えるため，2006年より「未来へ号』と名付けた車で各地をまわるアーティス ト・遗藤一郎。その車体には，行く先々で出会った人々が書き込んだ＂夢＂で埋められている。黄色い車体に青い字で大きく＂未来へ＂と書かれた䢹来へ号 バス」は＂未来へGO＂という意味も达められ，彼の愛車であると同時に住居でもある。震災後，彼は現在 で4台目となる「未来へ号バス」に乗り，東北の地へ向かった。2011年5月には岩手県大船渡市にて，炊 き出しや餅つき，綱引き，さまざまなワークショップ，大船渡の伝統芸能などを交えた『やっぺし祭」という祭 りを開催。また，宮城県石巻市の商店街のシャッター
http：／／www．goforfuture．com

に絵を描いたり，岩手県釜石市や福島県福島市で凩あげプロジェクト「か来龍大空凩」などを行う。東北でも出会った人たちの夢は「未来へ号りに書き加 えられ，東北の人の＂营＂，そして全国の人が描く ＂未来＂を乗せ，今も日本のどこかを走り続ける。

これからも未来へ号は東北をはじめ，全国を走っています。
見かけたら「お—い」と手を振って
夢を描いていって下さい。また会えるのを楽しみにしています。


アーカイブされた映像とUstream番組 これらすべての記銢は，「3がっ11にちをわすれないためにセンター』の webサイトでご覧いただけます。
http：／／recorder311．smt．jp／

## 咉像

わすれン！ストーリーズ わすれン！ きまぜまな人の3月11日の体験と，その日を忘れない ためのストーリー。サーフショップオーナー，図書館輈員，鮨両人，書店員など34名のインタビューを放送中（2012年2月17日現在）。

学校と震災


授業を再開するまでの桃子を先生方が語ります。2012年2月17日現在，2校公開中。順次リストアップ予定。

## Ustream番組

（わすれんTV311）

てつがくカフェ
カウンタートーク


そもそもそれって何なのか？」という問いを投げか萑し話を通して目分の考えをたくましくすること かくカカェコ。そんな＂カフェ＂閉店後に行われるスタッ， つの延長戦トークを放送。震災を語ることへの＂負し目＂＂支援＂について語ります。

支援のかたち サポセン
～生放送！サボセンかわら版 かわら版現地で支援活動を行っている市民活動団体 NPO•NGOの方々をゲストに招き，支援活動の始 り，現在，これからの課題についてトークします。


復興のプロセスを記録し発信する 3がつ11にちをわすれないためにセンター せんだいメデイアテーク

さまざまなメデイア活動を通じ，情報共有•復興推進に つとめるとともに，収鐌をれた映像•写真•音声・テキス トなどを「震災の記録•市民協働アーカイブ」として記録•保存する活動。このセンターでは市民•専門家・ス タッフかか協動し，復旧•復興のプロセスを独自に発信し，記録していく。センターには「スタジオ」と「放送局」があ り，「スタジオ」ではビデオカメラなど取材用機材の提供 を行うほか，テキスト執筆•映像や写真の編集・インター ネットへの配信•情報収集などに利用できる。「放送局」 ではインターネットを介した番組の収録を配信を行う。

非営利の市民活動を行う個人•団体で，せんだいメディ アテークを拠点に被災地で記録•情報発信活動ができ る方を募集します。詳細はwebサイトをご碓認ください。

© 022－713－4483 ■ wasuren＠smt．city．sendai．jp
（Twitter，Ustream，Facebook：recorder311）
http：／／recorder 311．smt．jp／


鏍縕に，丁寧に＂震災後＂を記録
そこにあることば
小森はるか＋瀬尾なつみ
〈活動期間：2011年3月～）
東京藝術大学大学院に在籍し，映像（小森）と絵画制作（瀬尾）を行うらたりが，2011年3月末に東北 でのボランテイアをきっかけにスタートした活動。現地で出会ったある住民の「震災後の状態を記録して ほしい」という言葉から，被災地の記録活動が始まつ た彼女たちは每月ボランティアとして東北の地へ通 い，沿岸部を移動しながら映像•写真・スケッチ・テキ

ストなどで記録を残し，ブログやTwitterを通して，周辺地域の状況やそこに幕らす人々の様子などを組かく記していった。2011年9月には約1ヵ月間東北 に滞在し，さまざまな場所を巡りながら現地の方にイ ンタビューを行い，目にしたとと・開いたとと・考えたこ とをブログに綴った。また，関東や関西を中心に東北 の状況を言业や映像で伝える報告会も実施。今後 もその土地に生きる人たちの姿•言葉•風景を丁寧 に記録し，未来へと伝えていく。

私たちは2012年3月から岩手県に移住して活動を続けます。今後，webサイトや冊子
展示などきまざまな形で記録を伝えていく予定です。見たもの，聞いたものをできるだけそのまま伝えることを大事にし，これからもふたりで活動していきたいと思います。
－komori．seo＠gmail．com http：／／komori－seo．main．jp



被炎地の生活を助けるデザイン集 OLIVE（オリーブ）

「見えないものをつくる職業」という意味を持つデザイン事務所•NOSIGNERが立ち上げたプロジェクト。「雪から飲 み水をつくる」「新聞紙で防寒」「ペットホトトル湯たんぽ゙」な ど，災害時に身の周りのもので生活できる知恵を収焦し， そのデータベースをwebサイトにて公開している。震災発生から40時間後に立ち上がったwebサイトには数々の実用的な情報が世界中から集まった。編集・デザインされた情報はPDFにてダウンロードでき，さまざまなサイズに印刷 できる。また，それらを印刷したものを被災地に届けるプロ ジェクトも行った。現在は，『OLIVE」の書籍化や展示会。 ワークショップを開催している。
webサイトでは今までに集まった情報の䦎筧，さらなるアイ デアの投稿ができます。また，展示やワークショップの告知も
随時行いますので，ぜひご覧ください。随時行いますので，ぜひご覧ください。
（ 03－5834－7652
info＠nosigner．com


## 地球防衛家の <br> （aby fix <br> 作：しりあがり寿 ©SHIRIAGARI Kotobuki 2011



2011．04．13（解日細，夕刑


2011．05．14




2011．05．12

朝日新聞にて連載マンガ地球防衛家のヒトビト』を執筆していた，しりあがり寿。盛岡でボランティアリーダーをつとめる友人の「被災地に来て，ここのことをマン がに描いてくれ」という言葉に背中をおされ，震災から1カ月後にボランティアや チャリティーバザーの手伝いを行いながら被災地をまわった。以降，誰にもおい つけないスピードとビビットさで東日本大震災をテーマにしたマンガを描き続け大きな反響を呼んでいる。それらをまとめた『あの日からのマンガ』は『平成23年度 第15回文化庁メディア芸術祭』マンガ部門優秀賞受賞。また，『地球防衛家の ヒトビト」は現在も朝日新聞夕刊にて連載中。
『あの日からのマンガ』 しりあがり寿／著 683円（発行：エンターブレイン）





2011．04．27


2011．03．18

2011.04 .21 （W十⿵冂⿱丷干犬

## しりあがり寿

1958年静岡市生まれ。1981年多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業後キリンビール株式会社に入社し，パッケージデザイン，広告宣伝等 を担当。1985年単行本『エレキな春』でマンガ家としてデビュー。パロ ディーを中心にした新しいタイプのギャグマンガ家として注目を浴びる。 1994年独立後は，幻想的あるいは文学的な作品など次々に発表，マンガ家として独自な活動を続ける一方，近年ではエッセイ，映像，ゲーム，アート など多方面に創作の幅を広げている。


## 特别号／2012．03．11堒行



62
みんなでつくる＂わたしの町
マイタウンマーケット マイタウンマーケット実行委員会

福島県新地町小川公園応急仮設住宅に住む子どもと大人が一緒に「町を模した市場 $\rfloor=$ 《マイタウンマーケッ ト》を仮設住宅内で定期的につくりあげていく活動。露店の敷物となるゴザづくりから始め，「町の要素」をイ メージした店をみんなで計画し，準備を重ねて1日限りの町•市を実現する。＂店＂をつくることで＂町＂を考える経験により，「復興」という漠然とした言葉が等身大のアク
ションに結びつく。被災地で行われる日常生活を再考す る行為をポジテイブな仕組みによってすくい上げ，これ から先の地域の生活文化に結びつくことを目指す。

たしかな目的のもとにおこなう「実働」も必要だけど，見たことのない新しいものに向かう ことで生まれる＂子どもも大人もよそ者も隔てない協働＂もきっと大切。マイタウンマーケットはそんな協働の一例です。今後も定期的に開催していき ますので，ぜひ一度足をお運びください。

## М mytownmarket＠junkitazawa．com



オランダから子どもサポート基金

## タネマキプロジェクト

タミママ
タネマキプロジェクトは，オランダ・アムステルダム市在住 のイラストレーター・イマイヒヨコと夫のマークふたりで立 ち上げた復興支援のための基金。クリエイテティア゙な活動支援活動を毎回日本帰国時に実施している。「ものをつ る楽しみを体験する $\Rightarrow$ 新しいこと／異国の文化を学ぶ $\Rightarrow$ 楽しい時間を過ごす $\Rightarrow$ ワークシシップでの出来事，思 い出を家族や友達とシェアする」このサイクル，プロセスを
大切にしながら，子どもちが短時間でも何かに夢中に大切にしながら，子どもたちが短時
なれるようなワークショッブを開佺して

詳しい活動内容はwebサイトのACTION
ペーシにて。次の活動は2012年冬を予莞しています被災地の保育園，幼稚園，地域ボランティア団体の方々などは，メールにてご連絡ください
$\square$ hellotanemaki＠gmail．com



離れてもご近所さん！桃浦集会所浜っ子としてこれからも in 桃浦

復興に時間がかかれば，わずか数世帯を残しバラノ゙ラ になった故郷は無くなってしまうのではないかっ地元の声 を受け，まずは桃浦の海が眼前にひろがる場所に皆が集える集会所を建設中。主宰は，『ユイノハマプロジェク ト」。宮城県石巻市桃浦地区や地区内の荻浜小学校の「これから」を応援する活動を美術家•岩間賢と狩猟家•大島公司を中心に，想いに蜑鳴した仲問と長期的な視野で活動している。その建物は，モダニズム建築として評価されているセキスイハイム・Mユニットをリユース（協 （※関連インタビューP3参照）
たくさん集会所を使ってもらえると嬉しいです
 4月23日（月）の祭りで，逢いましょう。住民ではない方も， ぜひせひどうぞ！
－koji．ooshima．020560＠gmail．com（大島公司）
http：／／yuinohama－p．com／




世界の手芸愛好家がバッグで支援
被災地の子供たちへ贈るスクールバッグ

（犑）日本手芸普及協会は，8分野の手芸の普及事業か，手芸指




世界17の国と地域から1万人以上の協力者たち。合計6万枚以上のバッグ
所，個人，その他の部雚先へ贈られた。

「心を込めて，自分でもできる何かを」と，手芸愛好家 や子とどもを持つお母さんたち，現地でのボランテイア作業が学校生活を送れるように，多くの方が願っています。
© 03－5261－5096 ■ office＠jhia．org
http：／／www．jhia．org／

現地で必要とされる多彩な活動 LOVE FOR NIPPON
一般社団法人ラブフォー
（動動朋間： 2011 年 3 月14
多くの著名人が参加するラブフォーニッポンは，現地での炊き出しや物資提供，LIVEや大道芸人パフォーマンスなどのエ複合的なサードスを届ける多彩な活動を開してい。自分たちはみなさんに何度でも何度でも会いに いまます。「被災地を助ける」ではなく，この地震がきっかけで䇣がれた「家族と友人たち」に会いにいきます。
（ 03－6820－8806 Мinfo＠lfn．jp http：／／www．lfn．jp／

アーティストサポートプログラム
被災した芸術家•団体のためのサポートプログラム

- 般財団法人アーツエイド東北
- 般时団法人アーツエイト東北は，寄付金をもとに被災した尝術家•団体への助成を行っている。昨年はは「被災した芸術家•団体の ためのサポードログラム」として，主に岩手•宮城•福島を活動拠点としてきた芸術家への助成を行った。今後も活動は䋛続きれる。

2012年度の被災した芸術家•団体へのサポート
プログラムは，5月と10月ごろの募集を予定しています。
詳しくはwebサイト（http：／／aat．or．jp）をご筧ください。
－info＠aat．or．jp http：／／aat．or．jp／
バーゼルでチャリテイ展示
ART－AID：Easel Project for Japan （アートエイド：バーゼル
ART－AID実行委員会
（活盘期間： 2011 年 4 ～$~ 8$ ）
ART－AID：Basel Project for Japanは「『アートバーゼ ル」開催期間中にスイス国バーゼル市にてチャリテイ展示 を開催し，展筧会入場者からの募金を全額，震災孤丠を支援する「あしなが䏍英会」へと寄付した。
本㞗示を通じてテーマ「来るべきま来への
進億」とする機会となりますよう願っています。
$\boldsymbol{\text { Minfo＠artaid．jp http：／／www．artaid．jp／}}$


ガソリン不要なみんなの＂足＂
椿景早

NE・ラフアクトリー，京都造形芸術大学，
 （活動期間：2011年3月～）
台北で東北の震災を知以，神戸で被災した経験を元に何をすべきかを模索したアーテイスト・椿昇。震炎直後は水や灯油の供給に大きな障害が起こっていたため，がり リン不要であるタフな搬送自転車の制作を発案。 Twitterの呼びかけに応じた神戸のカスタム自転車メー カーVIVALO（ビバロ）末瀬嘉広と，自転車ビルダー・日下周一の協力を得て，ユーラシア横断も可能な 100 年自転車を制作した。傕引用のトレーラーはアーテイスト・国
『海の星幼稚園」に寄贈した

ぜひ幼稚園や，図書館などの教育機関で人間力復活のシンホルとして使っていただければと顔います。
支援者を募って順次製作してお届けいったします。

■ metapolice＠gmail．com http：／／vitalfoot．jp

デザインの力で生まれ変わる石巻 SHINOMAKI 2．0（いしのまき2．0） SHINOMAKI2．0
宮城県石巻市の出身者と首都圈在住の有志により，新 いい石巻の町を＂つくる＂ことを目的に活動を行う。主な× パーは地元商店主やデザイナー，建築家など。「2．0」と を目指すことを意味する。石巻の中心市街地を执占に を指すことを意味する。石卷の中心市街地を拠点に， ジェクト，ものづくり工房の設立，シェアオフィス・コミュニ テイスペースの運営，『石巻まちあるきマップ1\＆2」の制作，そのほかイベントの主潅などあらゆるプロジェ外を同時多発的に進めている。

参加ご希望の方はメールにてご連絡いただくか，直接事務所までお越しください。䋛続的な拠点「復興を泊り運営のお手伝いや改修などのお手伝いを募集しています。

宮城県石巻市中央2－10－2 1F
－info＠ishinomaki2．com


商店街に現れた，みんなの遊び場 みなみまちcadocco（ミナミマチ

イラストレーター・奥原しんこが企画，デザイナー・服部滋睢（はつ とりしけきき）か設計し，商店街の一角につくられた子どもの遊び昜。宮城県気仙沼市南町にある津波で浸水しなからも比較的害の少なかったビルを改装してつくられた。ここでは日々，部活 アンス，伝統芸能などの練㑭が行われ，子どもたちかか安心して プ・お芝居・コンサートのほまか，隣接するる仮設商店街 と連動し，流失した写真探しの観覧，商店街のイベントや組合の会合などに活用き れ，町の人々の想いの場となってい


イベントの告知や報告，日々の活動の溙子は，


宮城県気仙沼市南町2－1－25
2090－5592－4405（南町•䄸崎青年会 坂本正人）
http：／／ishinomaki2．com

 こて確認ください。またサイバーエージェント社の「ビグラ －life311＠more－trees．org http：／／life311．more－trees．org
81 （活動エリア：東京都ほか


森のリリースを活用した復興支援 LIFE311（ライフ31）

音楽家•坂本龍一が代表を務める森林保全団体more ees。岩手県気仙郡住田町と連携して展開する被災地支援プロジェクトVLIFE311」。地元の森から生み出された木材を地元で加工し，地元の職人が建てる木造仮設住宅 の建設費用を民間から募った資金でまかなう仕組みた
支援金は，銀行振达，タレジットカード決済が可能。web

ート活動の支援で被災地を救う Japan Art Donation（ジャパンアートドネーション） Japan Art Donation
（活盘期間：2011年3月～〉
一ト関係者らが有志とともに立ち上げた義援金プロジェクト。 アートを通じた微興支援」として，被災地域で行われるアーティ ストの活動文化事業を支援している。昨年は音楽イベント「
ジェクト FUKUSHIMA！」（P11参照）などを助成し被災地におけるアートプロジェクトを，陰ながら
－そ
info＠japanartdonation．or

未来の作品をオークションで 3.11 復興支援 未来オークション

写真家やアーテイイト，漫画家に未来の作品の制作権を オークション形式で販売する「未来オークション」を都内複数のイベント会場などで実施。眅売金額を寄付してき こっァートをつくり出す人と楽しむ人がひとつの力となり

東京にいる僕らも今後はより東北と結びつい
hidekon＠gmailcom http：／／act．j

1プログラムでアート活動を支援 ARTS NPO AID（アーツ NPO エイド）

ーテイストならびにアートNP0の表䙺の回復を推進するプラットフォー
向けたた取り組めへ支援を行う。寄付募集• $\cdot$ webサイト運学•物資の供給・アートNPOコーデイネートなどムつのブログラムを展開している。 NPOやアーテイストのみならず，広くコミュニティアが闌わるアート

『 080－2444－6322 ロ office＠anpoap．org http：／／anpoap．org／



## （監督：鎌仲ひとみ 2006年）

核燃料再処理工場が建設された青森県上北郡六ヶ所村で暮らす，地元住民の日常を追ったト キュメンタリー。私たちは一体原子力とどう向き合 べきか……？リスクと隣り合わせの生活につ 1上映会\＆トーク】 3月17日（土上映会 $=11: 00-13: 00,13: 15-15: 15, ~ 19: 00-21: 00$



畠山直哉｢陸前高田」
津波で大きな被害を受けた陸前高田市出身の畠山直哉。震災後に故郷を撮影した写真の中 には基礎だけが残された生家の写真も含まれ ている。震炎前の平和な故郷の姿を写した
ライドショー「気仙川2002－2010」と対で展示。


1974年生まれ。震災後，自衛隊員が瓦礫の中からアルバムを集めたり，写真を修復するボランテイアが喜ばれていることを知り，人々にとって写真が大切なものであることを実感。カメラマンである自分にも＂何かできないか？と考え，撮影した写真をプレゼントす るプロジェクトをはじめる。ポストカードにもなっている写真は，遠くにいる親戚や友人たちに送る手紙にもなる。



【ハガキで応募】応募用紙をハガキに貼以，以下の住所までお送号室わわプロジェクト「わわ新聞特別号ブレゼント」係
【FAXで応募】ご記入いただいた応募用紙を03－6240－1608まで
【メールで応募】応募用紙内の項目をメール本文にご記入いただき oubo＠wawa．or．jpまでお送りください

## プレゼント応募用紙【ご記入欄】

- 住所：


## －電話番号：

－希望するプレゼント（いずれかに○をつけてください）
（1）塩セット（2）磐城壽（3）オリジナルパーカー
『わわ新聞』をお読みになった感想

『わわ新聞』を入手した場所
－『わわ新聞」で今後取りあげてほしいこと


【読者プレゼント】プレゼントをで希望の方は，応募用紙にで記入いただき，ハガキまたはメール，FAXにて



## 




 を続はこわ北展立こ活 N 覧ジエ゙ 2




登炎から1年をな32012年3月11日 より，わわプロジェクトは『「つくること
が生きること」東日本大祳災榎興支援プロジェクト展」を開蕉いたします。本展では，アーテイストや建築家， に行った支援づロシシェクトや活動を紹介するとともに，「どこで・だれが，何を想いっどのような活動を行って るのかりをあらためてみつめ，後興に向けて創造力を持って表現•活動する
人たちの想いと活動内容を共有する人たちの想いと活動内容を共有す

